

2005・平成17年

復習用現代語訳

管仲かんちゆうがまだ身分の低ほうしゆくかったころから鮑叔は彼と親友だった。管仲が齊せいの宰相となったのは鮑叔が彼を推薦したからである。管仲が宰相となつて、内政を統治し、諸侯をたばねた時、桓公（齊の君主）はすべての政治案件について（管仲の提案が正しいかどうか）鮑叔に質問した。すると鮑叔は「桓公様は必ず管仲の提言を実行なさいませ。（宰相が起草した案文に、何も言わず、齊の君主として国印を押すだけにしなさい）」と言う。鮑叔は管仲を宰相に推薦しただけでなく、このように彼を支援したのだ。鮑叔は本当に管仲の親友である。

管仲が病やまいで起き上がれなくなると、桓公は政治の実権を委ゆだねる人物（次期宰相）を誰にするかを問い、その時鮑叔の性格もたずねた。管仲は答えた。「鮑叔は人格者です。大国を与えようとしても、大義にはずれていれば、受け取りません。そうではありますが、彼の性格は善を好んで悪を憎むことはなほだしく、一つの悪を見ると一生忘れず、彼が政治を運営することはできません。」

(これでは) 管仲はまるで鮑叔(から受けた恩に) そむいているではないか。(と思われるが、) そうではない。これこそ管仲が鮑叔の短所を隠し彼の名誉を保った理由なのだ。鮑叔が管仲を理解していたことは有名だが、管仲がこれほど鮑叔を深く理解していたことはいったい誰が知っているだろうか！

曹参そうざんは身分が低いころしょうか 簫何と親友だったが、簫何が宰相になると仲が悪くなった。簫何が死ぬ間際、彼は次期宰相の候補として曹参しか推薦しなかった。一方の曹参も(宰相の死期が間近であると聞いてすぐに旅装を整え、「私はこれから上京して宰相になるぞ。」

と言った。その言葉どおり、勅使がやってきて曹参に参内を命じた。さらに曹参が簫何の次の宰相職を任せられると、彼は簫何の作った法令にすべて従い、何も変更しなかった。この二人(曹参・簫何)のことは管仲・鮑叔の場合と正反対だが、実は(親友に対する深い理解という点において) まったく同じなのだ。

※「今の政界においてこのような交友は皆無である。裏切りばかりの現実からすれば、まったくうらやましい限りだ。」というのが筆者の真の主張だろう。

1 固已…昔から。固もとヨリも已すでも、「以前から」という共通の意味を持つ。中国語は二字熟語になって安定するという性質を持つので、「固已」という熟語になっているが、通常の訓読のままでも意味に大差がないので、固もとヨリ已すでと読んでいる。7行目の「已甚」も同様の熟語だが、通常の訓読のままでは意味が通じないので、已はなはだ甚シクと読んでいる。

2 不知…そうではない。それは違う。※不知の前後は「A。不ず知シラ」
「B。または「A。不ず知シラ。B。ナルヲ」となっており、補って訳すと「A（と思われるが、そうではない。世の人は）Bを知らないのだ。」となる。訓読から機械的に訳すと日本語にならないので、不知の直訳「知らない」を「そうではない」に代えた。

3 賢者…高官の候補者。人材が登用される時は、まず「賢者」として推薦されて候補者となった後、皇帝・王侯・公から任命される。

音読用書き下し文

鮑叔固ほうしゆくもとより已すでに管仲かんちゆうを微びなりし時に識しる。仲齊せいに相したるは、叔しよ之これを薦すすむればなり。仲既すでに相したりて、内うちに政事おさを修そとめ、外そとに諸侯しよを連つらぬ。桓公かんこう毎つねに之これを鮑叔ほうしゆくに質ただす。鮑叔ほうしゆく曰いはく、「公こうは必ず夷吾いごの言げんを

行へ。」と。叔惟だに仲を薦むるのみならず又能く之を左右すること此くの如し。真に知己なり。

仲疾に寝ぬるに及び、桓公詢るに政柄の属する所を以てし、且つ

鮑叔の人と為りを問ふ。対へて曰はく、「鮑叔は君子なり。千乗の

国も、其の道を以てせざれば、之を予ふるも受けざるなり。然りと雖

も、其の人と為りは善を好みて悪を悪むこと已甚しく、一悪を見れ

ば、終身忘れず、以て政を為すべからず。」と。仲幾ど叔に負

かずや。此れ正に鮑叔の短を護りて鮑叔の令名を保つ所以なるを知

らざるなり。叔の仲を知るは世之を知るも、孰か仲の叔を知るの

深きこと是くの如きを知らんや。

曹参微なりし時、簫何と善し。何の宰相為るに及び、参と隙あり。

何且に死せんとするや賢を推すに惟だ参のみ。参聞きて亦趣やかに

行を治め、「吾且に入りて相たらんとす。」と。使者果たして参を召

す。参又其の後相を属せらるるや、悉く何の約束に遵ひて、変

更する所無し。此の二人の事、管鮑と相反するも、実は相類す。

【主張をつかむ】

ステップ1 最初の2行を見る

鮑叔と管仲の関係は注1により「交友」。

ステップ2

最後の3行を見る

オシりから 読むとわかるよ お結論 ≡10

早読みは 最初と最後に 主語述語 ≡6

うしろからながめて行く。傍線Dは読めるので読む。12行目は1

字だけなので、9行目から最初と最後を読む。

最初 そうさんび 曹参微なりし時、しやうか 箫何と善し。

最後 この二人（曹参・箫何）のこと、管仲・鮑叔と相反するも、
実は相類す。

ステップ3

最終設問の選択肢を見る

三つのステップで共通する言葉は次のとおり。

友 鮑叔 管仲 曹参 箫何

①③④ 全部共通

② 友・鮑叔なし

⑤ 友なし

こうして①③④が正解候補となり、筆者の主張の一部は「鮑叔と

管仲、曹参と箫何はそれぞれ友だった」ということ。これで十分。

これが大事。退却して読み進む。

問1〔熟〕 受験のウラわざ「1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ！」^ニで「質」を熟語にすると「質問」。「問う・質問する」にもっとも近い読みを選択肢から探すと、「すすむ」「あたふ」「ちかふ」「ただす」「せむ」の中で「ただす（ただしいかどうか確かめる）」しかないので④が正解。

なお、「せむ」は「質問」の「問」を熟語にした「問責」から来る読みだが、2行目の場合は政治課題について桓公が重臣^注に「質問する」のだから、「お前が悪い！」と重臣を「責める」状況はありえない。

問3 A〔注〕 傍線部の直前の訓読は「鮑叔曰く…公は必ず夷吾の言を行へ」、訳は「鮑叔は言った…桓公さまは必ず宰相^注である管仲^注の発言を実行せよ」となる。すると、政治について鮑叔は宰相管仲の決定だけを尊重し、自分の意見は一切言わない態度なので、①「鮑叔…も…政治に関与」と③「鮑叔は…管仲（を）導（く）」はキズ。傍線Aの主語は「叔（鮑叔）」だけなので、①「鮑叔…だけではなく…管仲もまた…できた」、④「鮑叔…だけではなく…管仲もまた…できた」は「管仲も…」がキズとなり、⑤が正解。

⑤の「見えないところで」は出題者による補足だし、原文の「左右」が⑤の「補佐」とは誰も考えないから、これは難問だったはず。私もこの問題にはかなり時間を取られた。

なお、「左」はにんべんをつけて「補佐」の「佐」、「右」もまたにんべんをつけて「天佑てんゆう（天の助け）」の「佑」。いずれも「助ける」という意味があるが、知っている受験生はいないから安心せよ。

問2ア熟 受験のウラわざ「1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ！」コトにより「政柄」の「柄」を熟語にしようとしても思いつかない。そこで傍線アの直前から訓読すると「仲しゅ疾いに寝ぬるに及び、桓公政柄せいへいの属しよくする所はかを詢はかる」。熟語を使えば「疾」は「疾病しつぺい」「属」は「帰属」なので、訳は「宰相注の管仲が疾病しつぺいで寝るに及び、桓公は政柄の帰属すべき所（人物）をはかった質問した」。宰相は起き上がれないほどの重病なのだから、桓公としては④「政治の実権」を渡すべき人物を現宰相に質問するのが当然なので、④が正解。

なお、「柄」の熟語「権柄けんぺい」を知っていることは要求されないが、知っていたとしても②「利権」で迷う。また、「属しよく」はくちへんをつけた「委嘱いしよく」の「嘱しよく」で「委ねる・嘱ねる」と読むが、「属ぞく」の

熟語「帰属」でも意味をつかむには十分だ。多くの情報は誰も持っていない。限られた情報で戦うのは私も同じだ。

問2 イ漢 サービス問題。「為^{なり}人^{ひと}」^ニは「人柄」なので、⑤「性格」が正解。③「習癖^ニくせ」は「人柄」よりやや悪い意味。

問3 B 熟 受験のウラワザ「1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ！」^ニにより傍線Bの「道」を熟語にすれば「道理」であり、「理」をひとひねりすれば「義理」。いずれも「正義」「真理」など、「人が歩むべき正しい道」だ。そこで③「大義」と④「主義」の戦い。④は「すべてを知らない」の「すべて・手段」にあたる原文がないのでキズとなり、③が正解。

なお、②「規範」で迷った人がいるかもしれないが、「規」も「範」も「道」と熟語を構成しない。「規則」も「模範」も、中国思想においては「大いなる道^{みち}」より一^{ワン}ランク下のルールなのだ。

問4 熟 問3で苦労していれば簡単。問3の解答を利用すると傍線Bから傍線Cまでは次のとおり。「鮑叔は、大^注国^注でも大義がなければ…受け取ろうとはしない…善^{この}を好みて悪^{にく}を悪むことはなはだしく、一^{いち}悪^{あく}を見れば、終身忘れず」となり、「鮑叔は不正を嫌^{きら}うあまり」の②が正解。③「行動を慎^{しん}みすぎ」は「一悪を見れば、終身忘れず」

より弱い。熟語で訳してみても、③は慎重、②は嫌悪・憎悪・悪むなのだ。

問1b 悪問 正解は①「そむか」。「負く」という読みを知っていないとできない問題であり、「負く」は高校で教えていないし、「負^レ義^{ギニ}」

「負^レ約^{ヤクニ}」…「約束を破る」という用例を知っている受験生も皆無だろうから、正解率は低いはず。だから学力を凶る問題としては不適當であり、悪問。難問・奇問を避ける努力をしているセンター試験でもたまにはこんなことがある。出題者を恨む勿^{なか}れ。それほど試験作成はたいへんなのだ。君たちは次の説明を理解すればよろしい。

波線bを含む一文の末尾は「…ずや」なので詠嘆^{ヨウタン}。そこで訳は「管仲は鮑叔にも負くではないか！」↓「(管仲は鮑叔によって宰相になったのに、鮑叔を次の宰相に推薦しなかった。)管仲は鮑叔(かろうけた恩義)にそむくではないか！」となり、他の読みはありえない。

問5〔熟漢〕 傍線部Dの直前文を熟語によって訳すと「これ(こそ)まさに、鮑叔の短所を保護して鮑叔の令名(名誉)を保持した理由(ゆえん)である(ことを世間の人は知らない)」。すると、①「長所を変える」、⑤「長所を熟知」はキズ。③「才能を…ねたんで」

短所

は論外。④「短所を補って」は直前文の「短所を保護」に近いが、

④（鮑叔の）立場が悪くならないようにつねづね配慮していた」という証拠は原文にない。「配慮」したのは5・6行目で管仲が次期宰相として鮑叔を推薦しなかった時の「一回だけ」であり、「つねづね」ではない。したがって残りの②が正解。

問6（主張対比） 消去法で行くと失敗するか、時間がかかりすぎる。三つのステップでわかったことは、①③④が正解候補、筆者の主張の一部は「鮑叔と管仲、曹参と簫何はそれぞれ友だった」こと。あとは「対比に注意!」により、鮑叔・管仲と対比される曹参・簫何を確認すると、次のように③が傍線Eと合致するので正解。

③管仲 鮑叔を宰相に 推薦しなかった

簫何 曹参を後継者に 指名した

^E二人（曹参・簫何）の事、管仲・鮑叔と相反する

なお、④は「早読みは 最初と最後に 主語述語」により「^{主語}曹参と簫何が仲たがいをしていたこと…（は）…^{述語}相手への深い友情による」がキズ。9行目を訳してみると「曹参は身分の低いころ簫何と親友だった。簫何が宰相となると、曹参と仲たがいをした。」であり、「深い友情によ」ってわざわざ「仲たがい」をしたとは解釈できない。

①は「鮑叔が管仲の死後まで考慮していなかった」がキズ。